

都心冷やす 風の道探れ

ビルが立ち並ぶ福岡市の都心部で風がどのように流れているかをアニメーションで再現する実験を福岡市が進めている。郊外より都市の気温が高くなるヒートアイランド現象が進むなか、風の道を探ることで街づくりを生かし、夏でも涼しいクールスポットをつくり出す狙いがある。九州で初の試みという。

市によると、福岡管区気象台の過去2年間のデ

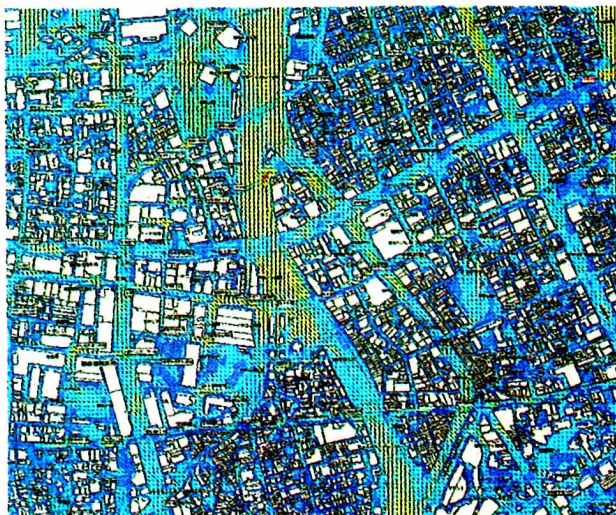
ータを分析したところ、福岡の街は年間を通して北北西の風が吹くことが最も多い。九州大学が開発した風の向きや強さを解析するコンピュータソフトに、天神や中洲、博多駅周辺など都心部(南北4キ、東西3・8キ)の地形や建物1万9千棟の高さ、形状をすべて入力。風の向きを矢印で、強さを10色で示し、風の流れをアニメーションで表現した。

ンで表現した。

その結果、遮るものがない那珂川や御笠川などは風が強く流れ、博多湾の潮風を届ける道になっていることが判明。渡辺通や大博通りなど北北西から南南東に延びる幹線道路も、川ほどではないにせよ一定の風の流れがあり、アスファルトの放射熱を拡散させているとみられることが分かった。

市は今後、研究者を交え、ビルの空調の室外機

福岡市が実験 ヒートアイランド対策



福岡市・天神、中洲地区の「風の通り道」を示した画像。川や幹線道が風の強い黄色になっている(福岡市提供)

や自動車の排気熱が風に乗ってどのように広がっているかを分析。どんな風の道をつくり出せばヒートアイランドの緩和に有効かを探究する。市都

心再生課は「例えばビルの建て替えを検討する人に、環境に貢献できる設計をアドバイスすることなどを考えたい」と話している。(吉田真紀)